
1. 「花と緑のまちづくりを女性庭師たちの手で」地域の女性たちが、女性庭師チームをつくり、地域の公共の緑を育て、守っていく試み

「花と緑のまちづくりを女性庭師たちの手で」委員会
(茨城県つくば市)

つくば市の女性企画集団「暮しの企画舎」は3年前から「女性庭師講座」を、つくば市、柏市、水戸市などで行ってきた。開催の度に、定員の5～8倍の申し込みのある大変人気の高い講座である。女性たちの申し込みのはがきには、「花と緑が好きという自分の特性を生かして、住みよく美しいまちづくりに役立ちたい、またそれを仕事にしたい……」という思いがあふれている。

この女性たちの意欲を、継続的なまちづくりに活かしたいと考え、つくば市での第一回講座を受講し、その後3年間修業して庭師として独立した土田祐子を代表に、暮しの企画舎メンバーと第一回受講生が中心になり、「花と緑のまちづくりを女性庭師たちの手で」委員会を発足させた。

地域の小さな公園を、まわりに住んでいる女性庭師たちがチームをつくり、花壇、植木、芝生の手入れなどをできるだけ総合的に請け負う。お年寄りにも仲間にはいってもらおう。子供たち、お母さんたち、お年寄りのあいだに交流が生まれ、公園も地域の庭として活用される。

というのが目標だ。「女性庭師講座」を継続的に開き、庭師としての実力を身につけ、3年後には、実際にプロとして仕事のできる庭師チームになろう。委員会メンバーだけでなく、女性庭師志望者たちを公募し、その人たちと共に育っていききたい。

助成が受けられることになったので、夏から「女性庭師講座」を行うことにし、受講生の募集を行った。120名の志望者の中から20名を抽選で選んだ。受講して、継続的な活動も行いたいと思った人たちには委員会のメンバーに加わってもらおうというわけだ。

講座の内容は、大きく3つに分けられる。

1. 公共の場所での花壇づくり
2. 剪定講座
3. その他、私たちの目指すような新しい考え方の庭師に必要と考えられる勉強

1については、大きな公園に隣接する緑地を借りることができ(約300㎡)、自分たちでワークショップを行って、デザインを考えた。細長い土地なので、小川のイメージのワイルドフラワーのフラワーベルトをつくり「花のおがわ」と名付けた。台風や冷夏にもかかわらず、秋には見事に咲いて、わたしたちを感激させた。また、草ぼうぼうだった荒地が美しい場所に変わって、「おじさんも長生きできるよ」とご近所のお年寄りに喜んでいただけたのがうれしかった。



花のおがわ

2については、いろいろな場所で何回も行い、大変勉強になったが、つくばの集落の旧家のお庭で行った講座が忘れがたい。元禄時代につくられた、築山が5つもあるという由緒ある大庭園だが、今は当主のおかあさんがひとりで管理をしているので、とても手がまわらないでいる。私たちも、2日間働いて、松などほんの一部が手入れできただけだったが、年を経た趣のある庭園で働くのはとてもすがすがしいものだった。また、すばらしい庭への思いを共有したことで、おうちの方と深い心の交流ができたように感じた。



旧家の庭での剪定講座

3については、「女性起業セミナー」で庭師としての新しい働き方を考えたり、「庭ウォッチング」で、地元のお庭づくりの名人古平さんに自作のお庭を案内していただいたり、発足時には思ってもみなかった貴重な数々の体験ができた。

1、2、3の結果、当初思っていたように、単に小公園の請負を考えるのではなく、つくば市の今はまだ豊かな緑を、どのように大事にしていくのか、もっと深いところから考えていきたいと思うようになった。

つくば市の集落の庭園的な美しさは誇るべきものだとことを実感した。この美しさを守っていくために、女性庭師チームにできることはないだろうか？ 単なる庭の手入れだけではなく、つくばの都心部の住民と集落の住民、あるいはお年寄りとお若年世代の女性たちとの間に新しいかたちのふれあいが生まれる。

「花のおがわ」のような場所が、いろんな公園にできれば、まちはもっと楽しく美しくなる。でも、誰でもがそれをできるわけではない。私たちも、数年間の「女性庭師講座」の実績と、グループと、助成金があったからできた。しかけづくりが必要。

公園をきれいにすることについて、庭の木の手入れについて、花と緑に関することならどんなことにでも相談にのってくれて、お年寄りが庭の管理に困っていれば、親切な庭師チームを派遣してくれて、しょっちゅう庭師講座を開いてくれて……そんなところがあったら、まちがどんなに楽しくなるだろう。そんな「花と緑のまちづくりセンター」をつくるために、そして維持していくために何が必要か、探っていくのが、今後の課題です。

